

# 高校生と取り組む地域課題の解決

## FROM PROJECT 秋田

秋田空港から車を10分ほど走らせたところに国際教養大学は位置しています。その国際教養大学の有志の大学生が集まり、秋田県内の高校生の“やりたい”を“プロジェクト支援”という形でサポートする。それが我々FROM PROJECT 秋田です。FROM PROJECT（以下ふろぷろ）は、「社会に“Good Impact”を与える人材の輩出」を目的とし、慶應義塾大学鈴木寛ゼミによって発足された一般社団法人で、2016年にここ国際教養大学の学生たちが学生団体として立ち上げたのがふろぷろ秋田の始まりです。今年度でふろぷろ秋田は11期目となり、これまでに100名を超える秋田県の高校生に参加いただきました。今回はそんな我々ふろぷろ秋田の取組みやその活動の原動力、そして我々の目指す地域像、活動の上での思いなどを紹介させていただきます。

### 高校生の輝く場所、ふろぷろ秋田

先程も紹介したとおり、我々は「社会に“Good Impact”を与える人材の輩出」を目標に活動しています。そこで高校生がプロジェクトを実行する上で大切にしている考えがあります。それは「個益」と「公益」です。個益とは自分自身の利益のことであり、公益とは社会全体もしくはその地域全体の利益を指します。ふろぷろ秋田の大学生は「講座」と称して、参加してくれた高校生に対してワークショップを開催し、その中

でプロジェクトの準備などを行っていきます。最初の講座では、高校生自身のプロジェクトを通して達成したい「個益」と「公益」を探求していきます。「個益」と「公益」の二つを同時に達成できるアクションこそが社会に“Good Impact”を与えられるものだとことを確認し、高校生は自身の「個益」と達成したい「公益」を基に自分が社会に与えられる“Good Impact”を考え、それを軸としたプロジェクトを実行してもらっています。「個益」に偏れば独りよがり、「公益」に偏れば自己犠牲になってしまうことを避けるためにも我々はこのステップをととても重視しています。



実際の講座の様子

今年度は秋田県全域から高校生を募集し、10名の高校生に参加いただきました。夏の豪雨や昨今の新型コロナウイルス情勢などから最後までプロジェクトを継続できなかった人もいましたが、2022年12月10日に行われた最終報告会では6名の高校生が国際教養大学内のホールで壇上に立ち、各々のこれまでの歩みや学びを紹介することができました。



最終報告会で発表する高校生

## ふるぷろ秋田の目指すもの、 目指す地域像

我々ふるぷろの大学生は、プロジェクト、そしてそのためのワークショップや報告会などを通じて中高生が1人では踏み出せない一歩を踏み出せるような場を提供することを目指して活動しています。実は今期、ふるぷろ秋田を運営している大学生は1人を除いて全員が秋田県外出身で、秋田については高校生の方がより深く理解しています。また県外出身の我々がとても驚いたこととしては、秋田の高校生は他県の若者より地元愛が非常に強く、秋田についての理解が深い印象を抱いたことです。だからこそ高校生は地域の課題に対して敏感で、それらの課題の解決に向けたモチベーションを持っています。しかし、高校生だけでそれらの課題に立ち向かい、解決しようというのはとても難しいことであり、「やりたいけど高校生だけの力では難しい」、「どうせできない」など、躊躇したり、限界を感じてあきらめてしまうというのは珍しいことではありません。そこで大学生である我々が高校生が日々感じている課題を解決するための最初の一歩を踏み出すのをアシストしたいという想いがふるぷろ秋田の活動の根幹となっています。しかし、我々は高校生の活動を全面的にバックアップするわけではありません

ん。あくまでも高校生自らが自身のプロジェクトを計画し実行します。つまり、高校生が自ら地域の課題を積極的に解決するという事です。時には躓くこともありますが、その時は高校生がその躓きからどんなことを学べるのか、立ち直り再度挑戦するにはどうしたらいいのかを大学生や周りの協力してくれる大人とともに考えることで、学校では決して得ることのできない価値ある学びをふるぷろを通して高校生に提供していきたいと考えています。

また、高校生がプロジェクトを成功させる上でとても重要なのは「協力者」を得ることです。プロジェクトを全く誰の手も借りずにやり遂げるといのは不可能に近いといえるでしょう。高校生は自分自身で協力してほしい人たちにコンタクトを取り、協力を要請します。多くの高校生は地元の地域の方に協力してもらい、それぞれのプロジェクトを実行していきます。地域や大人の方を巻き込み、自身の住む地域をよりよいものにしたいと考えてふるぷろに応募してくれる高校生も多くいます。

## 「地元を盛り上げたい！」

### ～高校生の思い～

今期活動した高校生のプロジェクトを一つご紹介します。伊藤さん(秋田南高校・1年)は、地元大仙市に住む、より多くの方に地域の魅力を知ってもらいたいという想いでイベントを企画し、実行しました。夏休みまでの第一回目のプロジェクト期間においては、大仙市の大きな魅力である「大曲の花火」の魅力や見どころを紹介するため、講演会を開催しました。伊藤さんの家族に花火職人がいるということもあり、実際に15名集まっていたいただいた参加者のみなさんに、伊藤さんだからこそ伝えられる魅力を

自らプレゼンすることができました。その後、一回目の反省点を活かして11月のプロジェクトの計画を立てる際、「もともとある大仙市の魅力をPRする」ことよりも、自ら「大仙市の魅力を新たに創造する」ことに焦点をあてました。大仙市の特徴である地域の人たちの温かさに気づいてもらい、「美しい大仙市」という価値を創造する。そのために、伊藤さんは二回目のプロジェクトとして「Clean Up Community」というゴミ拾いイベントを大仙市内三か所（大曲駅、刈和野駅、羽後境駅周辺）で計画しました。イベント実施にあたっては大仙市役所の方々にご協力いただき、ゴミ袋やボランティア活動として収集したごみであることを示すボランティアシールをご提供いただきました。当日は雨天により集まった人数は少なかつたものの、地域の方との交流もあり、当初の目的であったゴミ拾いと地域の方々の温かさにふれるという点について達成することができました。イベントの参加者をより多く集めるには継続的な実施が肝要であり、伊藤さんは今後も同様に大仙市地域の魅力創造のためにイベントを継続したいと考えています。以下、本人の学びの振り返りより一部抜粋いたします。



伊藤さんのイベント広告のポスター

スケジュールを立ててもなかなかうまくすすめることができずまわりの大人からは「無理なんじゃない？」などと言われてすごく辛いと思ったこともありました。また、うまくいかなかったときに孤独を感じてしまい、辞めたいと思ったこともたくさんありました。でも、そのようなときに大学生の皆さんや高校生の皆さん、学校の友達や先生方のおかげでなんとか乗り越えることができました。自分のやりたいことを全員に理解してもらおうということは無理なんだな、と思ったけれど理解してくれない人よりも理解してくれるの方が圧倒的に多いということを知りました。どうやったら理解してくれない人に理解してもらえるようになるのか考えて実行することも大切なんだなと思いました。

私は今まで新しいことに挑戦することが苦手な一歩踏み出すことに大きなためらいがありました。(中略)始めはこんなにも大きな経験ができると思っていませんでした。ふろぷろ秋田の講座やメンタリングを通して「うまくできるかどうかわからないけど興味あるからとりあえず挑戦してみよう」という考えが私の頭のなかにできました。普段の高校生活では絶対にこの考え方を手に入れることはできなかったと思います。ふろぷろを通して視野を広げることができました。また、私は普段学校ではあまりみんなの前で素を出せていないと感じることが多いのですが、ふろぷろの雰囲気が好きだったのでふろぷろのときはいちばん自分らしくいられたと思います。すごく貴重な経験ができ、素敵な時間を過ごせてとても充実した半年間でした。



最終報告会で自身のプロジェクトについて発表する伊藤さん

大学生はサポートをするといっても、あくまで高校生のプロジェクトの並走者です。何を、どのように達成するかは高校生一人ひとりが考えます。そうして経験した苦労や挫折は高校生の今後の大きな糧になります。秋田の魅力を、秋田の高校生自らが創出し発信する。これからの日本社会を形づくる若者にこのような意識をもってもらうことで、私たちは、若い世代が自ら地域コミュニティを作り、秋田から日本を盛り上げることができると考えています。

## プロジェクトのその先へ

ふろぷろ秋田に参加する高校生が地域の方とのつながりをもつのは自身のプロジェクトの中だけではありません。ふろぷろ秋田ではプロジェクトの途中経過などを報告する「中間報告会」、そして最終結果などを報告する「最終報告会」を開催しています。今期は中間報告会をZoom上で、最終報告会はZoom上と国際教養大学のキャンパスを会場としたハイブリッド形式で開催しました。報告会には参加している高校生の通っている高校の先生方や国際教養大学の学生、教職員、また秋田に拠点を置く企業の方など様々な方を招待し、高校生の行った、または行っているプロジェクトをよりよいもの

にするためにはどうすれば良いのかなどのアドバイスをいただいたり、地域の皆様に我々ふろぷろ秋田の取組みを紹介したりしています。特に最終報告会では、プロジェクトの成果とプログラムを通して得た経験や学び、そしてそれらを自らの将来にどう生かしていきたいかを、地元企業の方や地域の方々を含む参加者に向けて発表してもらいます。高校生一人ひとりの学びを多くの人に共有・還元することを目指しています。最終報告会でふろぷろ秋田のメンバーとしての高校生の活動は終了してしましますが、高校生が報告会に参加してくださる地域内外の大人との新たなつながりを作ることができるような場を提供することもこの報告会のもう一つの目的です。高校生が学校の中で過ごしているだけでは絶対に接点を持たないであろう地域の大人に出会う。これこそが学校ではできない学びの創出であると考えています。地域と若者の間にある溝を埋め、若者も含んだ地域全体で秋田の課題解決に向けて取組みを行うということの一助になればと思っています。前述のとおりふろぷろ秋田の活動は高校生が最初の一步を踏み出す手助けでしかありません。報告会をきっかけとしてできたつながりを基に、またさらに高校生が秋田の課題の解決に向けて動き出す第一歩となることを願っています。

